

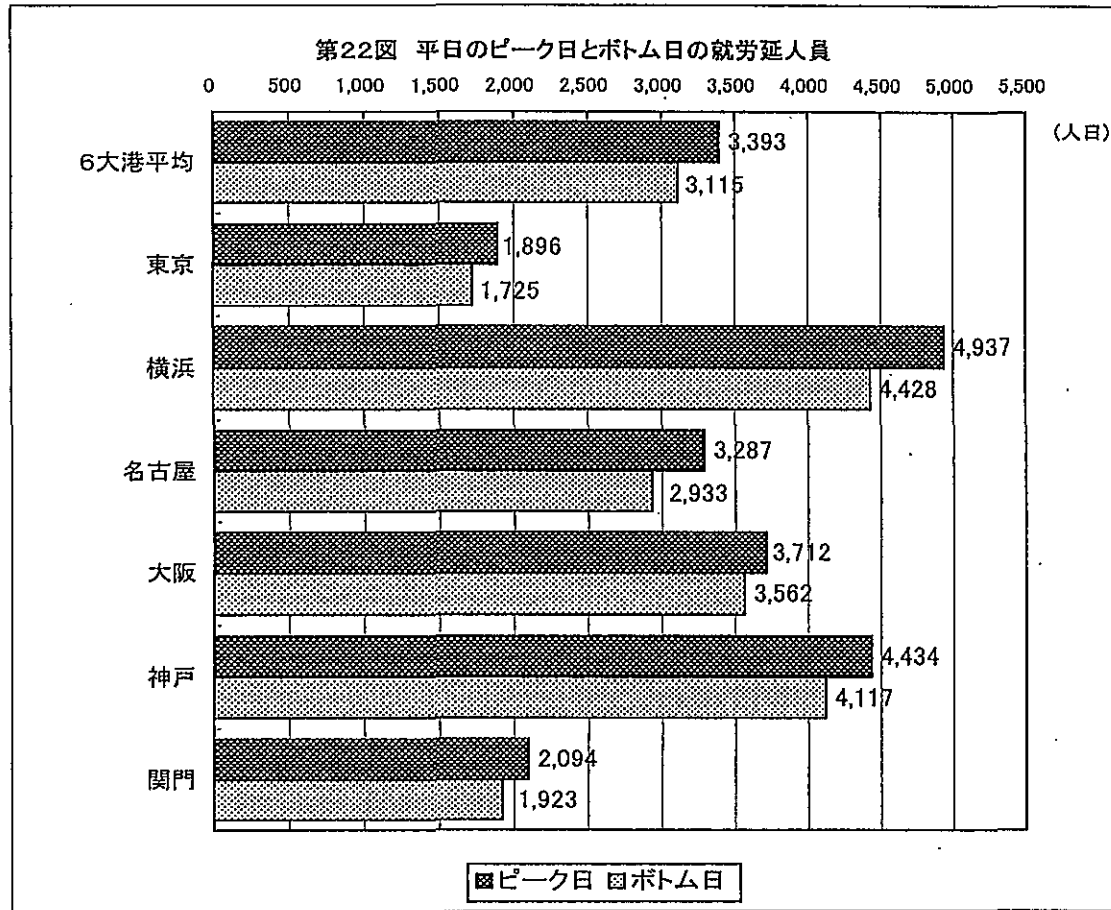
## 5 荷役の波動性に関する状況

### (1) 波動性の大きさ

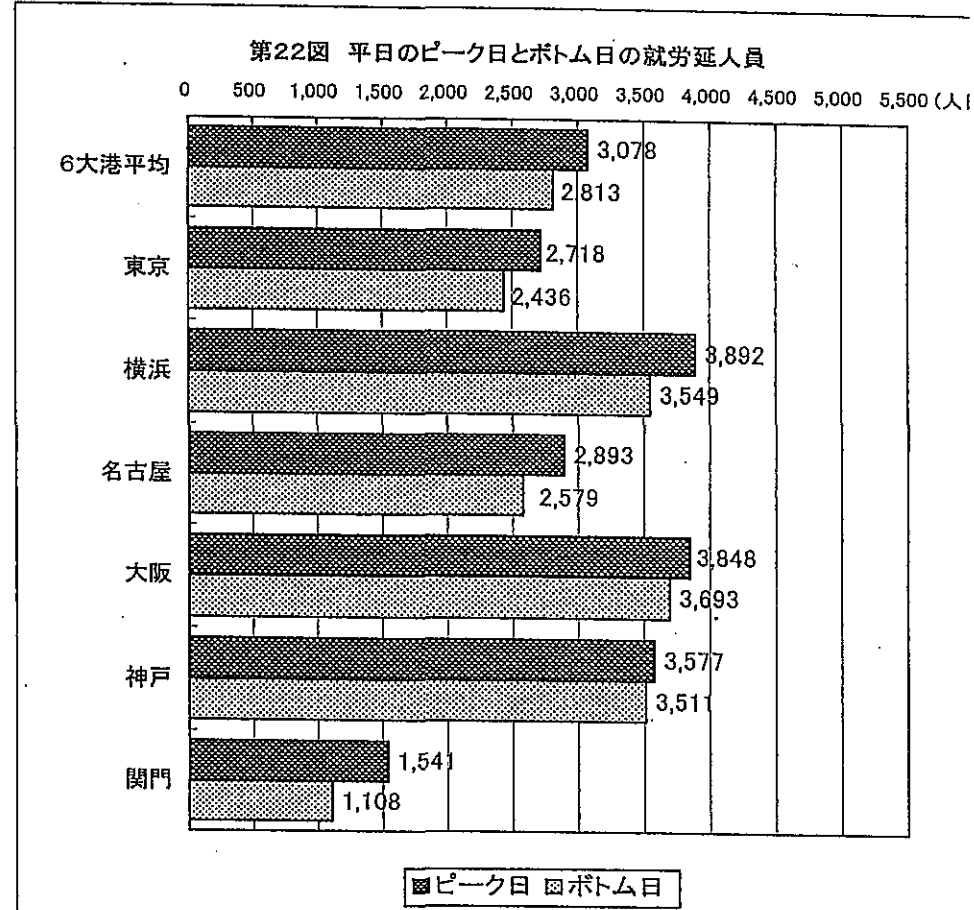
「ピーク日」と「ボトム日」の差(波動性の大きさ)について、6大港平均では265人日(平成15年)、278人日(平成20年)と大幅な差はない。港湾別では、横浜で343人日(平成15年)から509人日(平成20年)に、神戸で66人日(平成15年)から317人日(平成20年)に、それぞれ大幅に増加している。

これらより、横浜・神戸において、他港湾と異なる何らかの事情によって「ピーク日」と「ボトム日」の差(波動性の大きさ)が増加している傾向と考えられる。

(平成20年)



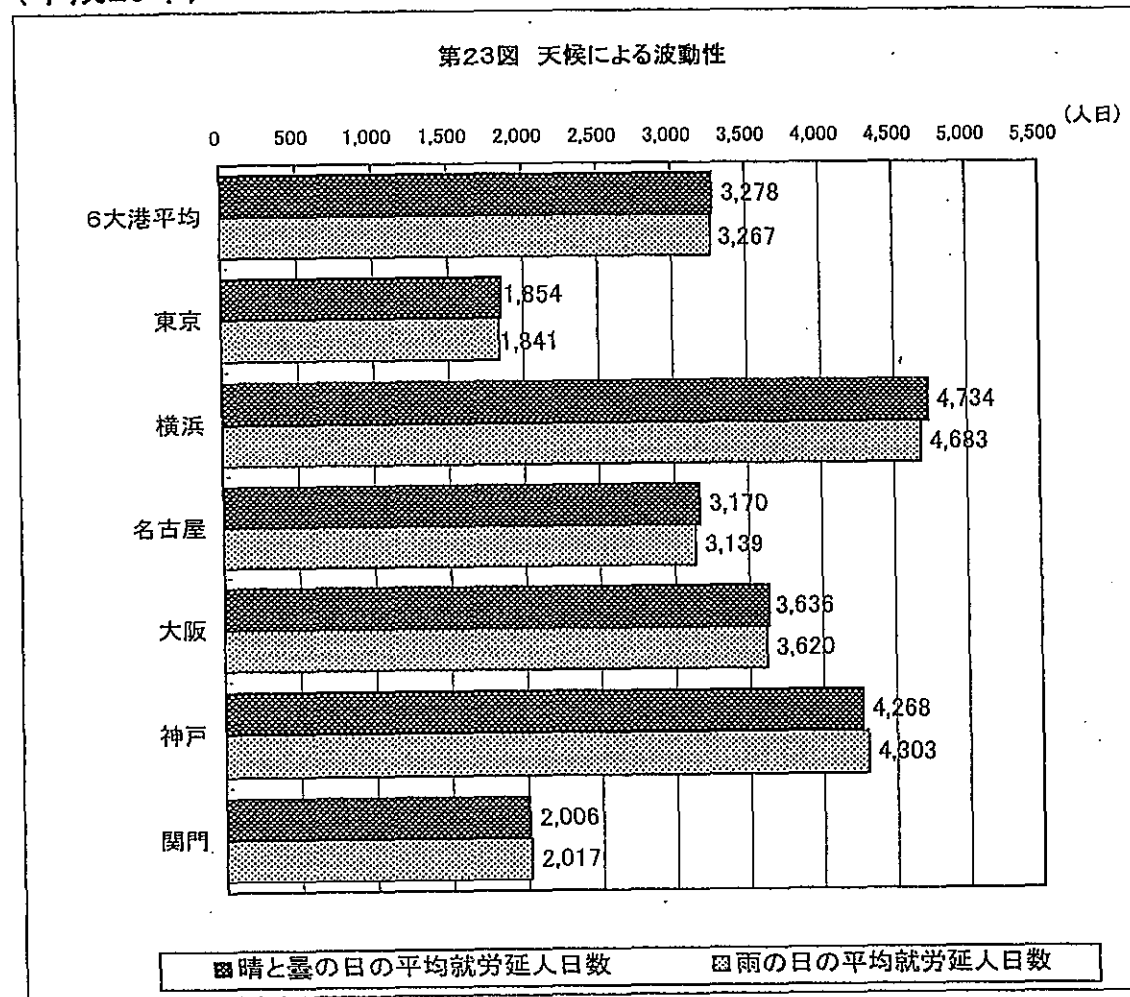
(平成15年)



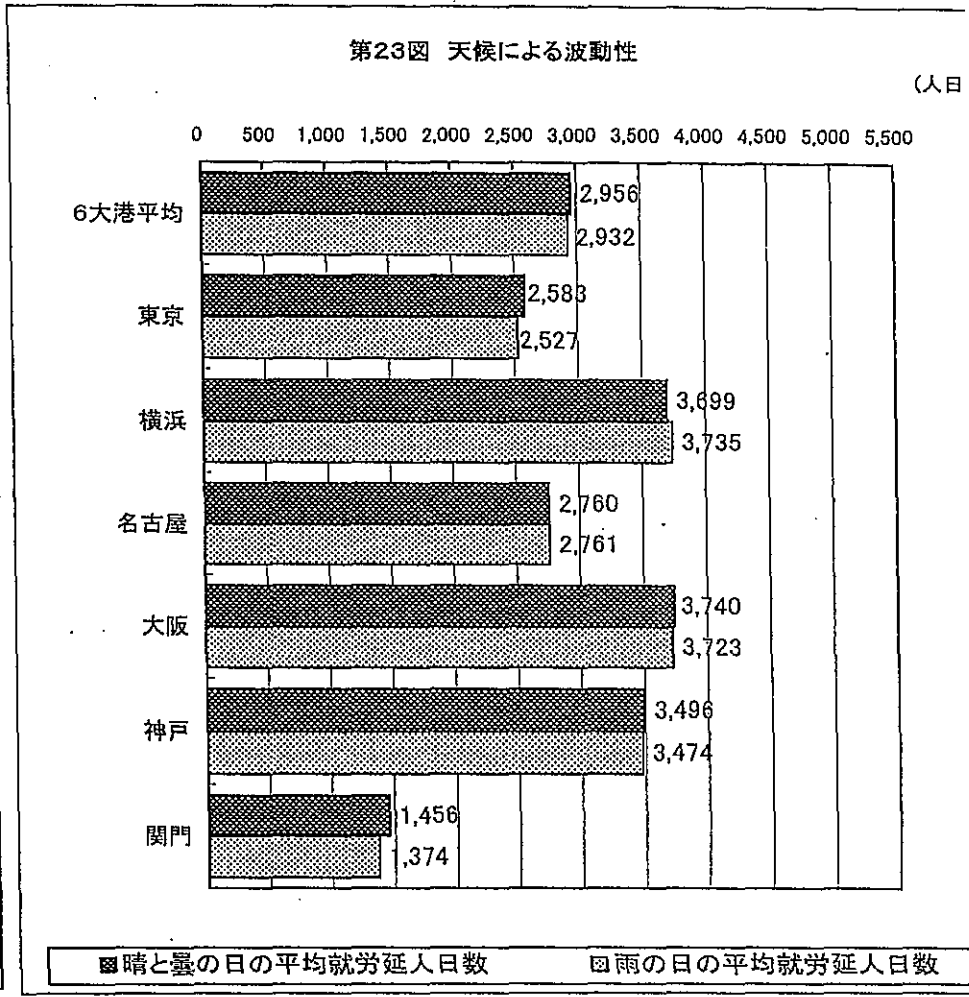
## (2)天候による波動性

「晴と曇りの日の平均就労延人日数」と「雨の日の平均就労延人日数」について、平成20年、平成15年いずれにおいても大幅な差異は見られない。

(平成20年)



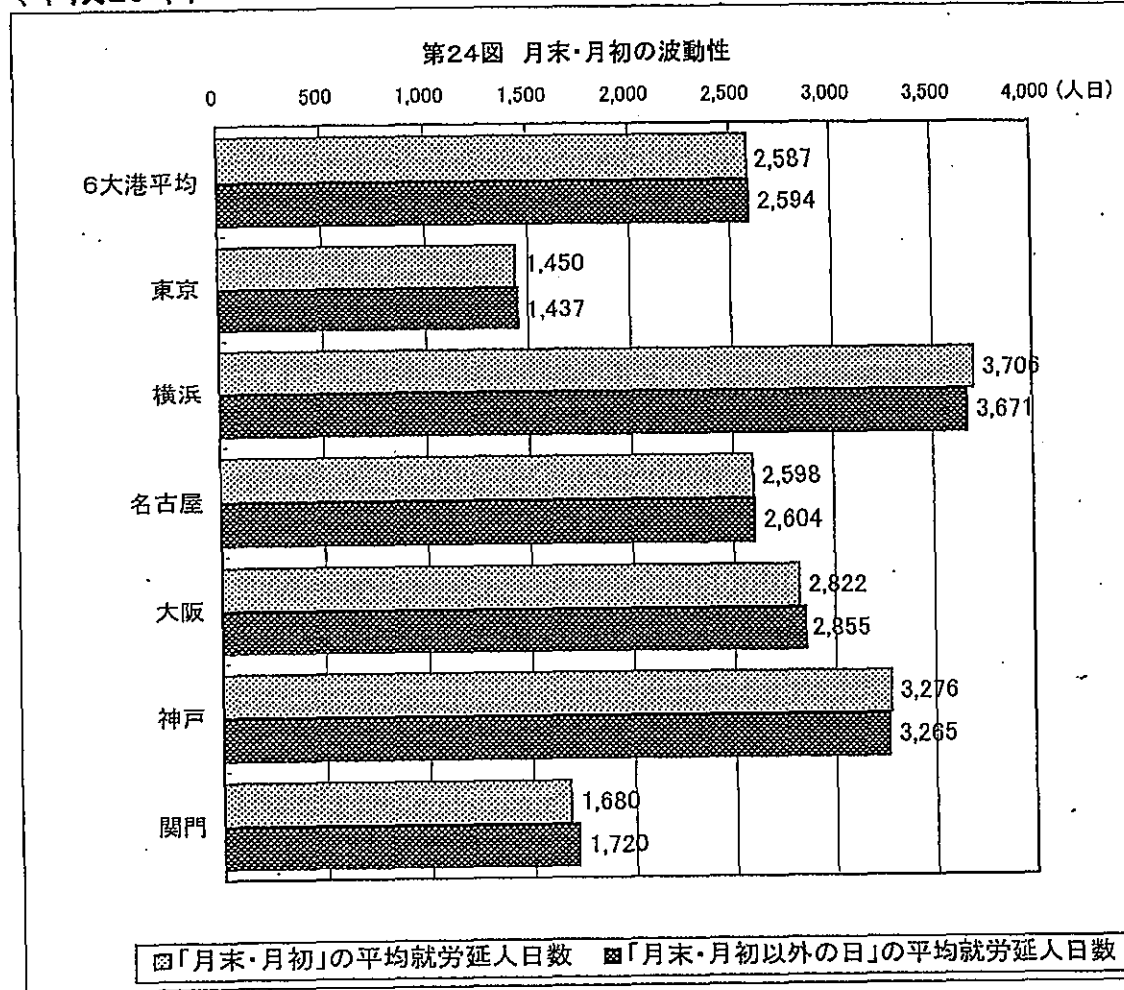
(平成15年)



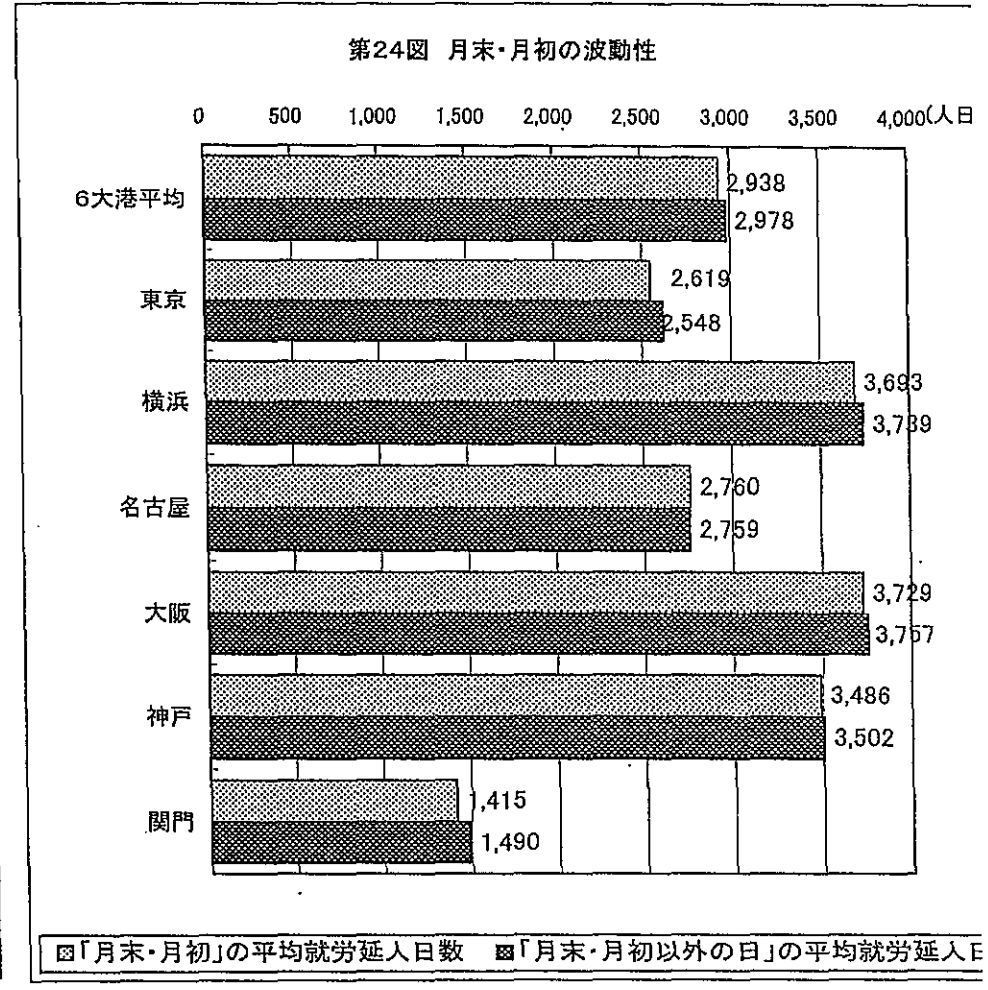
### (3) 月末・月初の波動性

「月末・月初」の平均就労延入日数」と「月末・月初以外の日」の平均就労延入日数」について、平成20年、平成15年いずれにおいても大幅な差異は見られない。

(平成20年)



(平成15年)



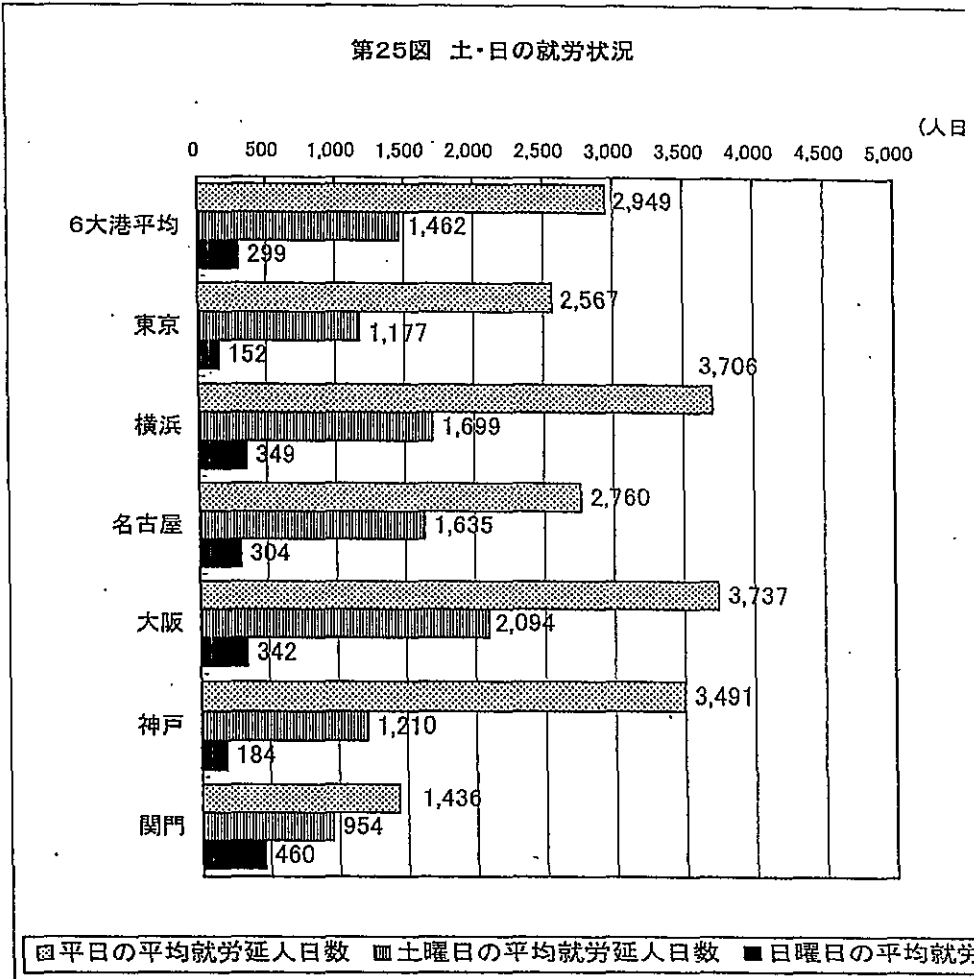
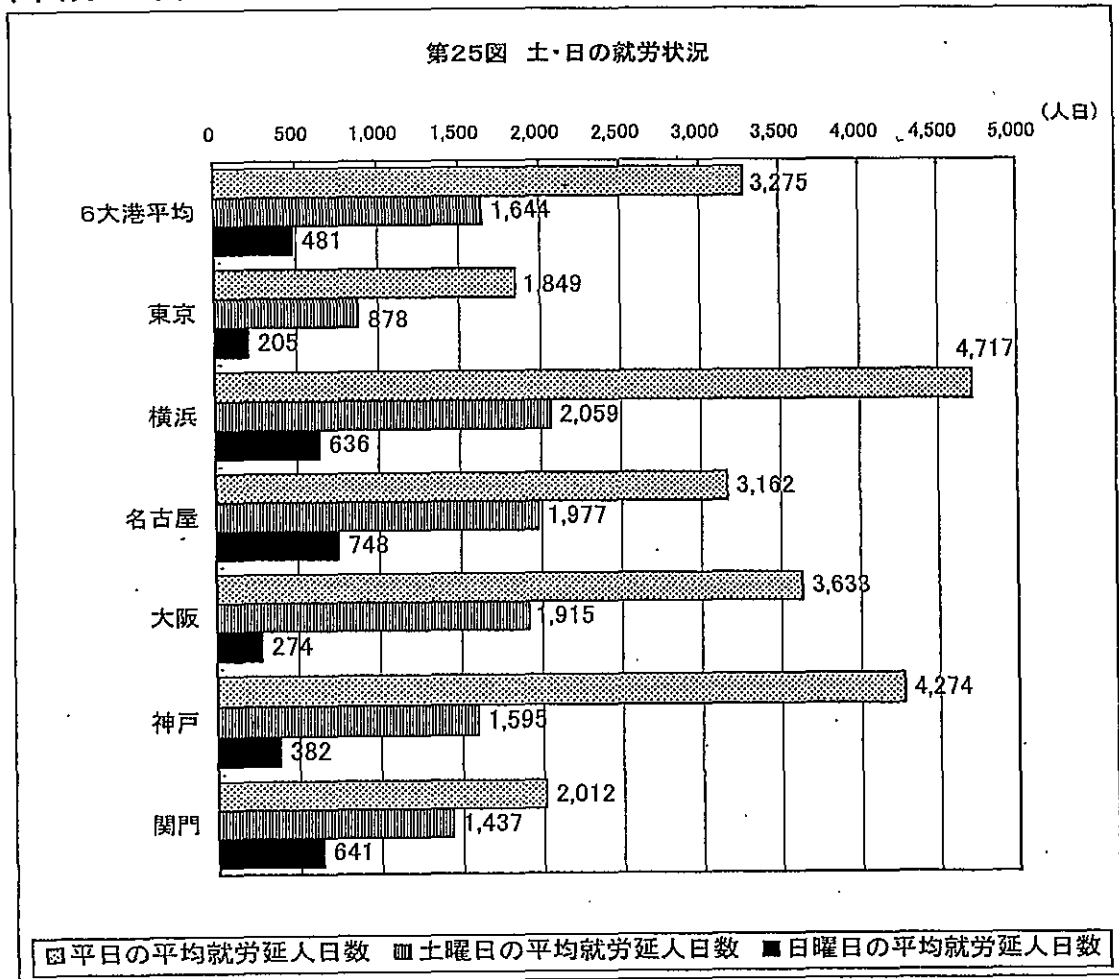
#### (4) 土・日の就労状況

6大港平均では、土曜日について1,462人日(平成15年)から1,644人日(平成20年)に、日曜日について299人日(平成15年)から481人日(平成20年)にいずれも増加している。港湾別では、横浜・名古屋・神戸・関門で、土・日いずれについても増加している。

（注）この図は、若狭港の増加等に伴い、平均の就労延人日数が、土曜日よりも日曜日の就労延人日数が増加している傾向を示している。

(平成20年)

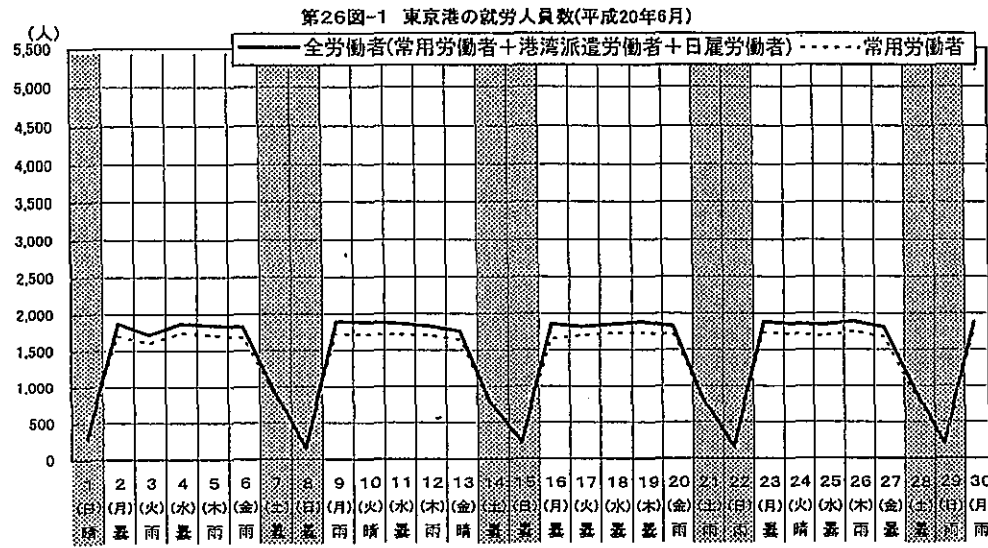
(平成15年)



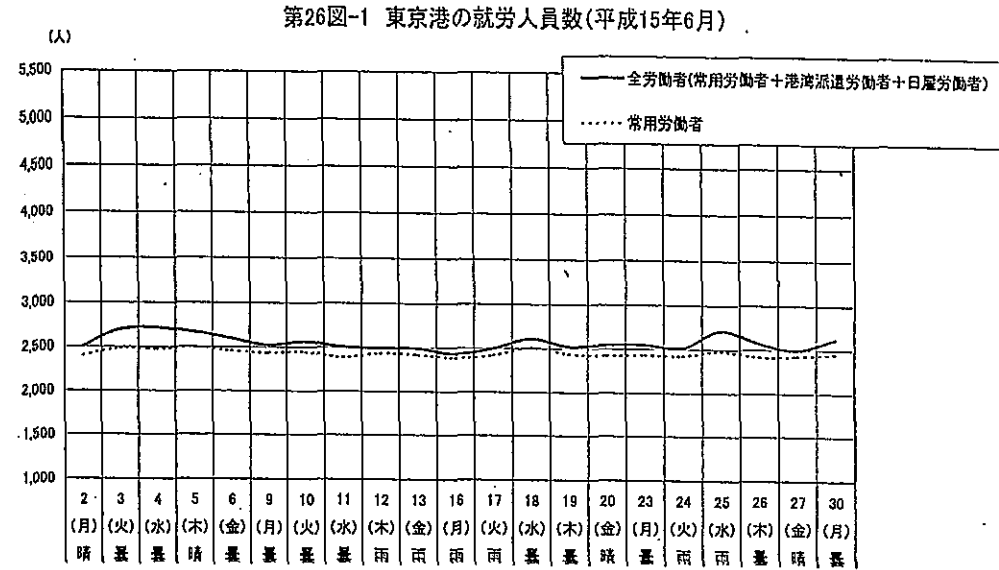
(5) 港別日々の波動性

平成20年、平成15年の各港湾いずれにおいても、天候による就労人員数について大幅な差異は見られない。

(平成20年)

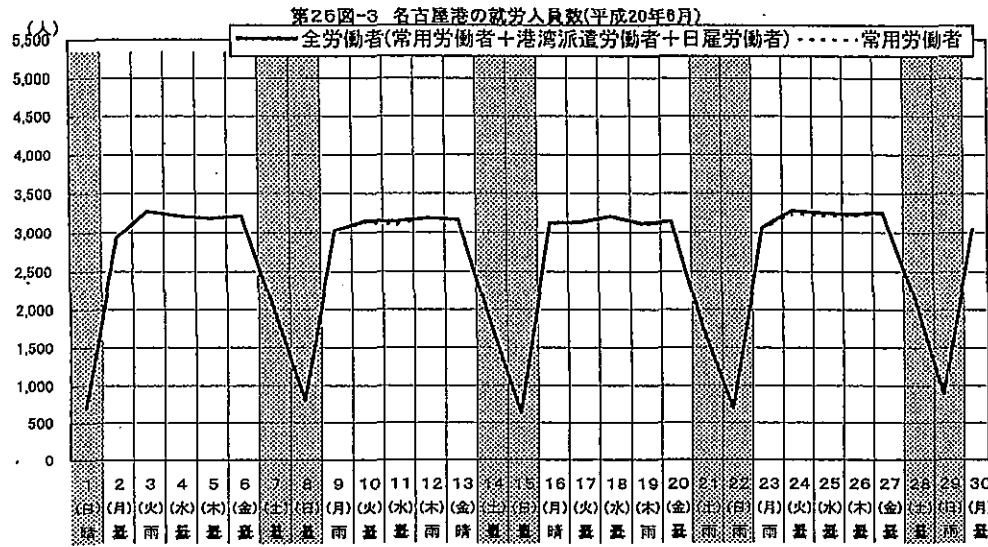


(平成15年)

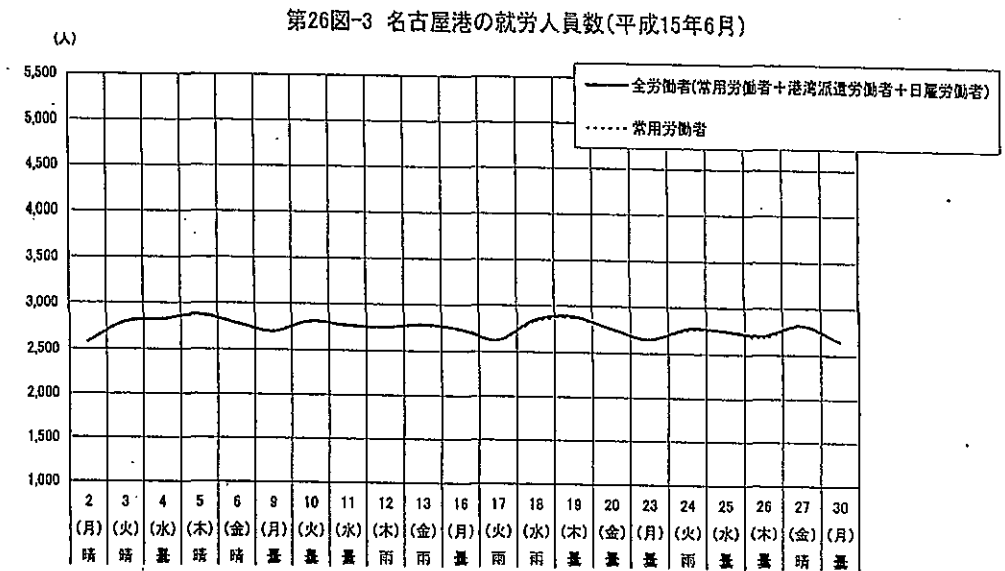




(平成20年)

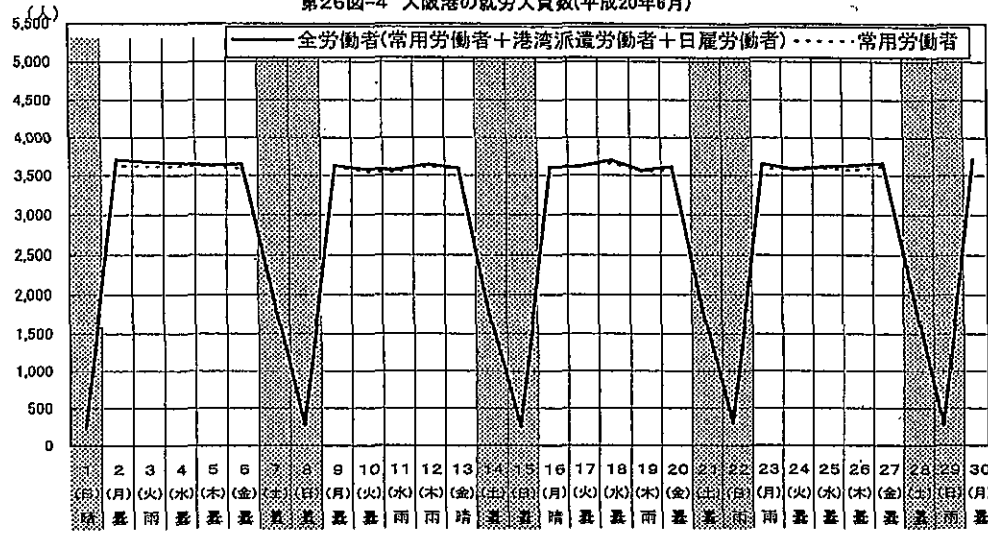


(平成15年)



(平成20年)

第26図-4 大阪港の就労人員数(平成20年6月)



(平成15年)

第26図-4 大阪港の就労人員数(平成15年6月)

